

令和元年度射水市廃棄物減量等推進審議会の概要

1 開催日時、場所

令和元年9月25日（水）午後2時

射水市役所3階 305会議室

2 出席者

川上 委員（富山県立大学教授）

沖 委員（射水市婦人会長）

竹苗 委員（射水市食生活改善推進協議会長）

砂原 委員（射水商工会議所事務局長）

金井 委員（射水市一廃収運業者協議会長）

広原 委員（射水リサイクル協会会長）

中島 委員（富山県環境科学センター所長）

橋場 委員（射水市商工会女性部長）

3 欠席者

川腰 委員（射水市地域振興会連合会常任理事）

松丘 委員（射水市環境衛生協議会長）

4 議題

（1）射水市分別収集計画（第9期）について

（2）平成31年度 射水市一般廃棄物処理実施計画について

（3）その他

5 質疑応答及び意見の概要

（1）射水市分別収集計画（第9期）について

《委員》

6ページの表の推移の見込みというのは、すべて人口の変動に比例させているということか。そうすると人口の推計が大事になってくるが、式が X_2 になっているのは X^2 の間違いか。

《事務局》

X^2 の誤りである。過去5年間、人口は減少傾向にあるが、カーブが一番似ている図形を探したところ、この数式が最も近似しており、このカーブが続くものとし推計値として利用した。

《委員》

平成30年度だと X が5になるので、 X に5をいれると、 Y は92,865ということだが、それは実績値か推算値か。

《事務局》

推算値である。

《委員》

では最初に実績値とあるのは、本当の人口ではなく、この式から計算された推算値なのか。

《事務局》

実際のところ、平成30年度の人口が92,867人、この計算式では92,865と非常に近い数値となる。

《委員》

従来の計画と大きく異なる点はあるのか。

《事務局》

第8期から施策の内容を継続する形で大きく変更する内容ではない。第8期の施策を引き続き行って数値が人口の変動によって若干変わるという内容の資料を第9期としてお渡ししている。

《事務局》

事務局からの提案であるが、第8期の施策は引き続き第9期として続けていく方針であるが、次の計画に生かすために、委員から回収につながる案があれば意見をいただきたい。

例えば、当市の環境課では、だれでも持ち込めるエコステーションを市内何箇所かに設置して廃プラの回収につなげるという施策が案にある。

それ以外でも回収率が上がる案があればぜひ伺いたい。

《委員》

それはあとから思いついた時でもよいか。

《事務局》

毎年開催の審議会の時や、何かあれば環境課に連絡いただいてもかまわない。ぜひ意見をいただきたい。

(2) 平成31年度射水市一般廃棄物処理実施計画について

《会長》

これは報告事項で、すでに実施済みということか。

《事務局》

すでに実施済みである。

《委員》

ごみの量を具現化したのはいいが、最終的に市の処分場の延命策を考えていけないといけない。

何年先までの計画をしているのか。また新たな処分場の計画があるのか。

リサイクルできるものばかりだとよいのだが、燃えないゴミが増えるということは、基本的に埋め立てにまわるゴミが増える可能性が大きい。

《事務局》

最終処分場については、今後約10年間はもつと考えている。計画上も令和9年度末まではもつということになっている。

処分場の整備については、新規で別の場所にする場合はおおむね8年かかるのでその場合は早急に整備しなくてはならない。

現地で増設の余地もあるので、その場合だと5年程度で整備できるかと考えている。

そのいずれかの選択はここ2年ほどですべきだと考えている。

不燃物は、2年前まではずっと減少傾向にあったが去年から一気に増加している。

今年度においても現時点で前年度よりかなり多く搬入している。その原因については、反対にこちらからリサイクル協会や一般収運業の会長もおられるので、ヒントなどがあれば教えていただきたい。

《委員》

古紙は、我々射水リサイクル協会が持っている数字からいうと、資料と同じように年々減ってきている。今から十何年前の状態をピークにすると、我々が扱っている資源は50%くらいまで落ちている。

集団回収の部分についても、全体の中からいうと80%くらいまで落ちている。

この原因はパソコンを使うことによってペーパーレス化が進んでいることがある程度見えるが、逆にPTAにしても学校関係にしても回収に疲れが見えてきている。

回収団体が減ってきているのもその辺の問題があると思う。

逆に言えば、それだけ減るということは減量化推進という部分でいえばいいことだと思うが、古紙はそういう流れである。

不燃物に関して、会社として話すと、個人の方が廃掃法上の部分できちんと意識が芽生えてきているんじゃないかと思う。

今までどこかで隠れていたものが出てきているのかと思ったりもする。

従来だとそのまま放置されていた、親がいなくなった空き家の家財道具や、どこかの山に捨てられていた、テレビ、冷蔵庫、洗濯機など家電リサイクル品が、きちんと処理されているのではないかと思う。

射水リサイクルセンターの受け入れについても個人がしっかり意識して持ってきている。

逆に言えば、個人的な思いではあるが、ここから年々また下がっていくのであれば、きちんと処分について周知されているのかともみている次第である。それにしても増え幅は大きいとは思う。

《事務局》

市でひとつ懸念しているのが、最近の産廃処理費が大きく値上がりしている中、今まで、例えば個人でもコンテナボックスを一箱借りて家財道具をそこに入れておけば割と安い金額で処理できたものが、2倍3倍の金額に上がると、市の施設に持って行った方が安い、という流れはあるのかと感じている。

《委員》

そういうことは、あるかもしれない。

我々自身、収集にいかず持ち込みされたものについて、産廃と一般廃棄物を分けて処分している。

産廃の値上げについては、中国が廃棄物の輸入を止めてしまい、輸出で出ていったものが出なくなって、代わって、マレーシアや色々な国がかわりに出てきているが、それでも、プラスチックに代表される、金になるようなものだけ受け入れ、金にならないものは受け取らないでいる。そういった今までは、日本から流れていったものが止められて、市場にあふれ出していることも考えられる。

先ほども話したように処分場が10年もつということは簡単だが、我々の代では、心配はないが、その次の世代の方ではどうするのかということも考えなくてはならない。

どんどん世の中が環境問題で変化していった場合に処分場がないということになると、ごみをどこにやるのかという問題が大きくクローズアップされる。

今の産廃関係の処分場の方々も、自分たちが持っている処分場が埋まると、次に許可がもらえない、そうなる、なるべく埋めたくなくなる。

埋めたくないけど、会社なので売上げをあげなければならない。金額を上げて、入れる量を減らしながら、売上げを現状維持しようと試みても、それでも意外と持ち込みがあり、量が思ったほど減らない。

そういう状況下で、去年から2倍から3倍くらい価格が上がっていることに加えて受入れ制限がかかっているのが現状である。

そのような中で、今までは個人が箱を借りて処理していたものを、自分で軽トラを借りて市に持っていく、というように変わってきている可能性もなくはない。

そういうふうに、世の中が変わってきている中で、皆がきちんと意識をして廃棄物を出すことによって、数字が正確なものになると考える。

《委員》

今の話だと、住民の意識が上がって、その辺に捨てていたのが持ち込まれるという面があるのかもしれないし、値段が上がったので個人で持ち込んでいるのかもということもある。

その辺も解析してみないと、直接搬入量が増えていることが良いことなのか、悪いことなのか、わからないので、もう少し今後の推移を見ていきたいと考える。

《事務局》

市としても、今後の推移を勘案しながら、色々な施策を検討したいと考える。